

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaranews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

Okamoto
株式会社 岡本工作機械製作所

「Grinding Technology Japan 2023」出展

“研削革命～Total Grinding Solution～”をテーマに 最新加工技術、未来のモノづくりへつながる製品提案

工具製造の課題解決 最適な加工技術提案

岡本工作機械製作所は3月8日(水)～10日(金)、幕張メッセ 展示8ホールで開催される「Grinding Technology Japan 2023」に出展する。

会期中は“研削革命-Total Grinding Solution-”をテーマに、研削のリーディングカンパニーとして、最新の加工技術、未来のものづくりへつながる製品を来場者に提案する。

主な出展製品は、精密門形平面研削盤「PSG208CH-iQ」をはじめ、精密平面研削盤「PSG127CA-iQ」、「PSG52SA1」、立軸ロータリー研削盤「VRG6DX」、精密複合研削盤「UGM360NC」、グライディングセンタ「UGM64GC」、精密円筒研削盤「OGM250EX III」、精密内面研削盤「IGM15SNC III-2B」など、幅広い産業分野のモノづくりを支える多様な最新研削マシンを出展する。

期間中は、展示会場内の特設会場において「研削革命～出展製品から見る最新研削トレンド」(3月8日、13:30～14:15)、「研削革命～機上計測と最新研削盤の活用について」(3月8日、15:30～16:15)、「研削革命～出展製品から見る最新研削トレンド」(3月10日、

13:30～14:15)をテーマに、製品技術発表会を実施するほか、3月8日(水) 10:00～12:30 国際会議場201号室において「欧州と日本の研削盤、それぞれの技術をみる」と題し、同社技術開発部 製品開発部 部長の吉田 裕氏によるパネルディスカッションも開催する。

精密平面研削盤 「PSG127CA-iQ」

精密平面研削盤「PSG127CA-iQ」は、同社平面研削盤の中でも中型～大型に分類され、マシンへの寄付き性と操作性、ワークへの段取り性を重視したコラム構造を採用。重量ワークの搭載に配慮してテーブルを高めに設定。作業者の視線と同じ高さに作業面があるため、オペレーターが腰を曲げずに作業を行うことができるなど段取り作業性に配慮した。またワークが左右方向に長く、テーブルと操作盤の往復移動が多くなることを想定し、操作盤は自走式を採用。ワークの近くで入力操作を行うことで作業性を向上したほか、大型タッチパネルを採用した操作盤を搭載し、直感的な操作を行うことができる。

同機は3D解析による最適な機械フレーム構造を実現。といし軸モータには同社従来比2倍のモータを搭載。高

剛生・超精密を兼ねそろえた研削加工を可能にする。

この他にも機上計測、オペレーターサポート機能・電子取扱説明書・カーボンニュートラルに対応する油圧駆動レス構造などOKAMOTO独自の多彩な高機能が搭載されている。

精密門形平面研削盤 「PSG208CH-iQ」

「PSG208CH-iQ」は、コンパクト・高精度・高能率加工要求に応える高剛性門形平面研削盤。自動車用モータコア用順送金型や液晶部品加工分野での高精度要求、金型ベース加工業界殻の高能率研削要求・短納期に対応する。

同機はロングセラーのコラム形平面研削盤PSG208DXNCのフロアスペースと段取りの容易性を継承し、といし幅100mmを使用することで前後幅最大1,000mmまで加工可能な高能率研削盤。

世界戦略の文字レス対話ソフト(iQソフト)は、画面上のアイコンを見ながらタッチ入力で容易に操作できる。

同シリーズは、平面研削盤で初めて自動データ作成機能を搭載。総取り代と精取り代を入力、次に砥石の粒度を入力するだけで、研削加工理論に同社の経験値を加味した最適研削条件とドレス条件を自動作成する。

また粗ドレスはオプションの上部ドレス、仕上げは卓上ドレス装置の組み合わせでドレス時間を短縮。

さらにシフトプランジ研削サイクルは粗取りをトラバース研削/仕上げをプランジ研削で行うことで、サイクルタイム短縮に大きく貢献する。

グライディングセンタ 「UGM64GC」

「UGM64GC」は、脆性材量の内・外周、コンタリング加工に最適なグライディングセンタ。工作主軸移動式構造を採用することで間口レイアウトを1,500mmとコンパクトに設計。摺動面にスラッジが入りにくい構造で機械の長寿命化を図ることができる。ATCは標準20本、オプションで最大40本に対応。最大砥石軸はφ150mmまで対応し、立軸方向からの外周、内周、端面研削を実現する。トイシ軸にはBT-40方式を採用し、大径トイシも効率よく研削加工できる。

同機はφ600mm回転テーブルを標準搭載し、丸物ワークに圧倒的な生産性を発揮する。しかもオプションで角テーブル600×400mm仕様にも対応。ドレッサー・ツールセンター、機上計測ユニットなど、多彩なオプションラインナップが搭載可能になっている。

